

*Bupleurum triradiatum* Adams ex Hoffm. var. *alpinum* auct. non Rupr.: Fr. Schm., Fl. Sachal.: 135 (1868).

*Bupleurum triradiatum* Adams ex Hoffm. var.

*ajanense* (Regel) Kos.-Polj. in Act. Hort. Peterop. 30: 200 (1914).

(東京大学理学部附属植物園)

# 琉球からのヒメケフシグロの1新変種と台湾で発見されたフシグロ (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: A New Variety of *Silene aprica* Turcz. in the Ryukyus, and *S. firma* Sieb. et Zucc. Newly Found in Taiwan

ヒメケフシグロ *Silene aprica* Turcz. はシベリア東部、満州、中国、朝鮮に広く分布するが、日本では九州北部(福岡県、長崎県)、四国(香川県)、本州(岡山県)にしか知られない希少植物である。ところが琉球からケフシグロ *S. firma* Sieb. et Zucc. f. *pubescens* (Makino) Ohwi et Ohashi として報告されているものは、茎や花柄に毛があるだけでなく、萼筒にも短毛が密生していて、萼筒

が無毛のフシグロとは異なり、種としてはヒメケフシグロに属す。ただ花柄が短くて花がやや密集した花序を持ち、果実は球状橢円形である (Fig. 1.a)。ヒメケフシグロは一般に花柄が長く、まばらに花をつける傾向が強い。また果実は橢円形であることが普通である (Fig. 1.b)。琉球のものはヒメケフシグロとしては最も東の端に分布していて、分布もやや離れているので、ヒメケフシグロ

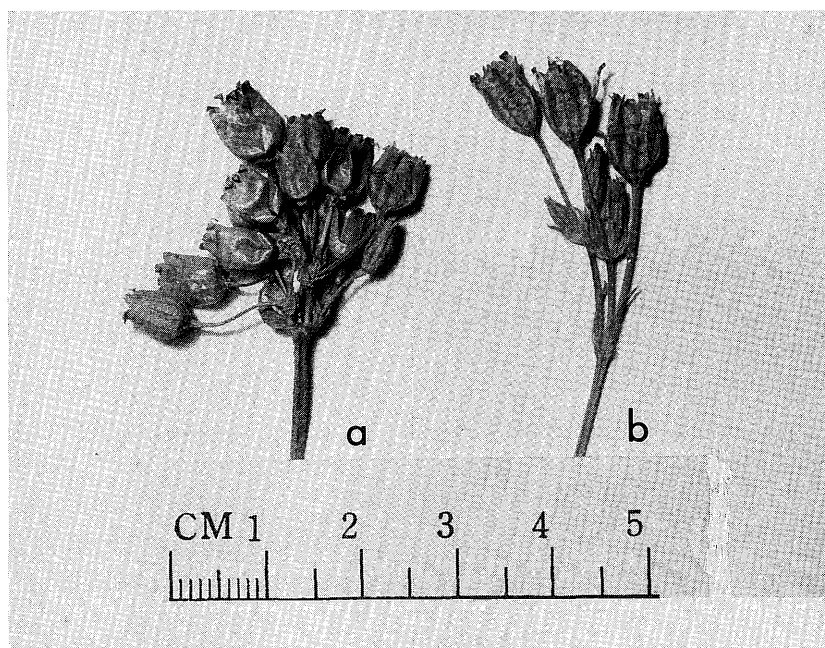


Fig. 1. Inflorescences of *Silene aprica* Turcz. a: var. *ryukyuensis*. Ryukyu, Is. Iriomote, Hoshitate (H. Ito, May 18, 1936). b: var. *aprica*. Amur, circa Blagowietschensk (F. Karo, Jul. 1905, no. 630).

の変種として区別するのが妥当であろう。変種としてリュウキュウフシグロとしたい。初島氏の琉球植物誌(1991)にはこの仲間は載っていないが、科学博物館に所蔵されている種子島の標本はリュウキュウフシグロである。したがってこの変種は九州南部から琉球南部まで分布することになる。ただ個体数が少なくあまり採集されることがないようにである。台湾で *Silene morii* Hayata として扱われているものはヒメケフシグロそのものと思う。九州では南と北で分布が断絶していることから、琉球のものは九州から南下したものでなく、台湾をとおして北上してきたものと思われる。

フシグロ *S. firma* Sieb. et Zucc. はアムール、ウスリー、満州、中国北部・中部、朝鮮、日本に分布し、ヒメケフシグロより分布が狭い。南の限界は九州南部であろう。ところが富山大学の難波恒雄氏の一行が、1968年の台湾で調査に際して採集してきた霧社の標本は、フシグロそのものであった。霧社にはヒメケフシグロもある。フシグロは台湾では今まで知られていなかったものであり、種類としては最南限である。

*Silene aprica* Turcz. ex Mey. in Ind. Peteröp. 1: 28 (1835).

*Silene morii* Hayata, Icon. Pl. Formos. 3: 35

(1913), syn. nov.

*Silene mushaensis* Hayata, l. c. 3: 35 (1913), syn. nov.

Dister. E. Siberia, Mongolia, Manchuria, Korea, W. Japan, N. to S. China and Taiwan.

var. *ryukyuensis* Yamazaki, var. nov.

*Melandrium firmum* (Sieb. et Zucc.) Rohrb. f. *pubescens* auct. non Makino: Hatusima, Fl. Ryukyus: 273 (1971).

Inflorescentia terminalis, in 1-3 gradibus multiflora. Capsula urceolata, 6-7mm longa, 5mm lata. Semina minora, ca. 0.5mm in diam.

Hab. Ryukyu: Iriomote Isl., Hoshitate. (H. Ito, May 18, 1936, Typus TI). Ryukyu: Iriomote Isl., in open grassy field on sandy beach (S. Hatusima, Jul. 9, 1955, no. 18498, TI). Kyushu: Kagoshima Pref., Tanegashima Isl., Okigahamada, seashore (Y. Hidaka, March 25, 1954, TNS).

*Silene firma* Sieb. et Zucc. in Abh. Phys.-Math. Acad. Muench. 4-2: 166 (1845).

Distr. Amur, Ussuri, Manchuria, Korea, Japan, N. to C. China and Taiwan (new to Taiwan).

Hab. Taiwan. Nantou Hsien, between Wushe 霧社 1000m and Chientsing 見晴 1800m (Namba et al., Aug. 23, 1968, no. 2437, TI).

(東京大学理学部附属植物園)

## クワガタソウ属の新帰化植物コゴメイヌノフグリ (山崎 敬<sup>a</sup>, 浅井康宏<sup>b</sup>)

Takasi YAMAZAKI and Yasuhiro ASAI: *Veronica cymbalaria* Bodard Newly Naturalized in Japan

最近、ツタバイヌノフグリ(フラサバソウ)(*V. hederifolia* L.)に似た *Veronica cymbalaria* Bodard (1798) が、各所で見られるようになった。この植物は地中海沿岸地方を中心に、南ヨーロッパにかけて広く生育する1~2年草である。花や果実がないとツタバイヌノフグリと区別しにくい、花弁は純白で萼片よりも長いので見だし、花梗は葉よりも長い。萼片は卵形~楕円形で鈍頭、平開し果実を包まない。果実に白色の長い開出粗毛を密生するのは顕著な特徴である。なお全体的にツ

タバイヌノフグリに較べると小ぶりで、葉は横幅が広く、鋸歯が浅く、数も多めで、葉の基部は截形状とならない傾向をもつ(Figs. 1,2 left)。ちなみにツタバイヌノフグリの花弁は淡紫色、萼片よりも短めで、花梗は葉よりも短い。萼片は鎌形、尖頭で果実を包む。果実の表面は無毛、平滑である。なお葉の鋸歯はやや深く、基部が截形状を呈する(Figs. 1,2 right)。

この植物は1961年に小石川植物園で、ヨーロッパから種子交換により入手し栽培したものに